

大学入試センター試験を歴史化する—文学テキストとして読む英語長文問題

土屋結城・伊澤高志・檜村真由・北 和丈・瀧口美佳

(1) ...本論は第二に、「文学作品」という「対象」を教材として英語教育に活用するのではなく、文学研究が培ってきた「読み」の実践・方法論を活かすことを試みる。いわば「対象」から「行為」あるいは「動詞」へという、「文学」の拡張である。(中略)それによって、教室での「文学教材」の使用とは異なった形で—それを否定することは意図していない—、文学研究のこれまでの蓄積を活かした、文学研究者の英語教育へのかかわりの可能性を示すことを本論の目的とする。(土屋・伊澤 2)

(2) 【H15 年第 6 問】 Although I spoke Japanese fluently and my behavior was in no way different from anyone else's, two of my new classmates started to tease me. . . . I'd spent half my life in Japan, and Japan was my home. . . . “You have only one culture, but Elena has two. OK, that makes her different, but aren't we all different?” . . . “I know that sometimes being *Brazilian and Japanese* makes things difficult for you, but it also makes you special.” (強調発表者)

(3) 【H27 年第 6 問】 . . . it doesn't seem like she's made any friends. Last week, she said that she usually reads by herself during breaks between classes while other girls are hanging out and chatting. Anna also mentioned that she walks to school alone every day. This is very different from how she was in the US. (強調発表者)

Actually I'm surprised to hear about your concerns as she seems to get along well with other students in the class. Probably, she'll soon form close friendships, but I do have a few ideas for you to consider that may help her do this. . . . If it's possible, you could have an American-style barbecue party and invite some of the students in her class. (強調発表者)

(4) 【H25 年第 5 問】 Joe from Buffalo, NY, USA: . . . this movie was so fascinating and delightful that I soon forgot I was reading the dialogue. The story describes a young woman who moves to the countryside with her husband when he tries to escape his busy life in the city. . . . The best part of the movie is how it shows the interesting and unique life in Japan's countryside. . . . Overall, I really liked this movie. The story is entertaining and the acting is great, but best of all, you can really see a different side of Japanese culture in the movie. I highly recommend this film!” (強調発表者)

(5) 【H5 年第 6 問】 Dad moved towards his usual seat in front of the window that opened to the backyard. Before he could get around the side of the table, I took a deep breath and said, “Dad, this is going to be your place, next to Mom, on the side.” He stopped and looked at me. Then he sat where I had indicated. . . .

. . . I don't know how Dad felt. I do know that, though removed from his usual place, he continued to share his best self with us, telling stories of his childhood and youth to the delight of his grandchildren.

It wasn't easy, but I sense that there is also something good in the change which has occurred. (強調発表者)

(6) As early as the C17, communication also had another, more participatory sense. Here it referred to a common participation or a shared quality or affinity, as in the Christian **communion**. (Morley 48)

(7) 【H19 年第 6 問】 “When I moved closer, . . . he [an albino gorilla] turned slowly toward me and calmly looked directly into my eyes. For the first time ever, I felt intelligence and awareness in the eyes of another species. . . . As we gazed into each other's eyes, the 140-kilogram gorilla suddenly slapped his hand flat against the glass wall, making a loud, forceful sound that made all the people in the room cry out in surprise.” (強調発表者)

(8) 【H7 年第 6 問】 問 3: Why did the author fall silent when he talked with the bat specialist? (強調発表者)

1. He felt reassured about the situation.
2. He found out that it would be impossible to remove the bats.
3. He learned that he would be able to share his luck with the expert.
4. He liked the advice given by the expert.

(9) 【H10 年第 6 問】 問 5: Why did Fred smile as he set off for home?

1. He was looking forward to having a delicious trout for dinner.
2. His daughter's family would praise him for catching such a fine fish.
3. The people who had teased him would have to apologize to him.
4. The pool he liked so much was going to remain quiet and undisturbed. (強調発表者)

(10) Too often, “communication” misleads us from the task of building worlds together. It invites us into a world of unions without politics, understandings without language, and souls without bodies, only to make politics, language, and bodies reappear as obstacles rather than blessings. (Peters 30)

(11) 【H29 年第 5 問】 Without thinking, as was my usual habit in the morning, I started to walk to my desk where my smartphone had completed charging and . . . I stopped.

問 4: At the end of the story, Yuji did not pick up his smartphone because he

1. decided it was time to improve his attitude
2. realized that it was not yet fully charged
3. wanted to stick to his old priorities
4. was afraid of being scolded by his mother

(12) 【H29 年第 5 問】 問 3: The cat thought, “I don't like this guy,” because Yuji . . .

1. could not recall the taste of food he had eaten at breakfast
2. tried to hide his efforts to study for the final exams
3. was making fun of his mother's concern for his future.
4. was not showing respect for people or things around him

(13) 【H29 年第 5 問】 問 5: What is the theme of this story?

1. Cats have much better senses than humans.
2. Observing yourself can lead to self-change.
3. People using smartphones look strange.
4. Unbelievable things can happen in dreams.

【参考文献】(大学入試センター試験問題と学習指導要領は除く)

Morley, David. “Communication.” Tony Bennett, Lawrence Grossberg, and Meaghan Morris, editors. *New Keywords: A Revised Vocabulary of Culture and Society*. Blackwell Publishing, 2005, pp. 47-50.

Peters, John Durham. *Speaking into the Air: A History of the Idea of Communication*. U of Chicago P, 2000.

土屋結城、伊澤高志「文学という行為と英語教育」『実践英文学』第 67 号, 2015, pp.1-16.

鳥飼玖美子『英語教育論争から考える』2014, みすず書房.

表1 高等学校の学習指導要領改訂時期

| |
|----------------------------|
| これまでの学習指導要領 |
| S22 (1947)年 3 月 [試案] 文部省発行 |
| S26 (1951)年 7 月 [試案] 文部省発行 |
| S30 (1955)年 12 月 文部省発行 |
| S35 (1960)年 10 月 文部省告示 |
| S45 (1970)年 10 月 文部省告示 |
| S53 (1978)年 8 月 文部省告示 |
| H1 (1989)年 3 月 文部省告示 |
| H11 (1999)年 3 月 文部省告示 |
| H21 (2009)年 3 月 文部科学省告示 |

※二重線以下がセンター試験作問に係わる

表2 外国語科の「目標」の変移 (強調は発表者による)

| | |
|-----------|---|
| S53 年度告示版 | 外国語を理解し、外国語で表現する能力を養うとともに言語に対する関心を深め、外国の人々の生活やものの見方などについて理解を得させる。 |
| H1 年度告示版 | 外国語を理解し、外国語で表現する能力を養い、 <u>外国語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度</u> を育てるとともに、言語や文化に対する関心を高め、国際理解を深める。 |
| H10 年度告示版 | <u>外国語を通じて</u> 、言語や文化に対する理解を深め、 <u>積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り</u> 、 <u>情報や相手の意向などを理解したり自分の考えなどを表現したりする実践的コミュニケーション能力</u> を養う。 |
| H20 年度告示版 | 外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、 <u>積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り</u> 、 <u>情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力</u> を養う。 |

表3 外国語科の指導計画作成と取扱内容の変移

| | |
|-----|--|
| S53 | <p>1 英語に関する学科における指導計画の作成に当たっては、原則として「総合英語」及び「外国事情」が含まれるようにする。</p> <p>2 内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>(1) 言語活動については、一部の指導事項に偏らないようにすること。</p> <p>(2) 科目によっては、言語材料について、理解こととめる事項と表現できる程度まで指導する事項とを適切に工夫すること。</p> <p>(3) 題材は、その外国語を日常使用している人々をはじめ広く世界の人々の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史などに関するものの中から変化をもたせて選択するものとする。</p> <p>なお、題材の形式は、説明文、対話文、物語形式、劇形式などとし、そのうちから選択するものとする。</p> <p>(4) 個人別、小集団別の指導を生かし、また、視聴覚教材などを有効に活用するなどして、生徒の能力・適性等に必ずるよう適切な工夫をすること。</p> |
| H1 | <p>1 英語に関する学科の指導計画の作成に当たっては、原則として、「総合英語」及び「外国事情」が含まれるようにする。</p> <p>2 内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>(1) 教材は、英語を日常使用している人々を中心とする世界の人々及び日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史などに関するものの中から、生徒の心身の発達段階及びその興味や関心に即して適切な題材を変化をもたせて取り上げるものとする。その際には、外国語の理解力と表現力を育成することをねらいとしながら、次のような観点に留意する必要があること。</p> <p>ア 広い視野から国際理解を深め、国際社会に生きる日本人としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うのに役立つこと。</p> <p>イ 言語や文化に対する関心を高め、これらを尊重する態度を育てるとともに、豊かな心情を養うのに役立つこと。</p> <p>ウ 世界や我が国の生活や文化についての理解を深め、国際的な視野を広げ、公正な判断力を養うのに役立つこと。また、題材の形式としては、説明文、対話文、物語、劇、詩、手紙などのうちから適切に選択すること。</p> <p>(2) 個人別、小集団別の指導を生かし、また、視聴覚教材などを活用して、生徒の能力や適性等に必ずるよう工夫をすること。また、ネイティブ・スピーカーの協力を得るなどして、生徒のコミュニケーション能力を育成するとともに、国際理解を深めるよう努めること。</p> |
| H11 | <p>1 英語に関する学科の指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>(1) 「総合英語」及び「異文化理解」については、原則として、すべての生徒に履修させること。</p> <p>(2) 「英語理解」、「英語表現」及び「時事英語」については、原則として、「総合英語」を履修した後履修させること。</p> <p>2 内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>(1) 生徒が情報や考えの受け手や送り手になるように具体的な言語の使用場面を設定し、多様なコミュニケーション活動を取り上げて指導すること。</p> <p>(2) 教材については、英語による実践的コミュニケーション能力を育成するため、各科目のねらいに応じ、実際の言語の使用場面や言語の働きに配慮したものを取り上げるものとする。その際、英語を日常使用している人々を中心とする世界の人々及び日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史などに関するものの中から、生徒の心身の発達段階及び興味・関心に即して適切な題材を変化をもたせて取り上げるものとし、次の観点に留意する必要があること。</p> <p>ア 多様なもの見方や考え方を理解し、公正な判断力を養い豊かな心情を育てるのに役立つこと。</p> <p>イ 世界や我が国の生活や文化についての理解を深めるとともに、言語や文化に対する関心を高め、これらを尊重する態度を育てるのに役立つこと。</p> <p>ウ 広い視野から国際理解を深め、国際社会に生きる日本人としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うのに役立つこと。また、題材の形式としては、説明文、対話文、物語、劇、詩、手紙などのうちから適切に選択すること。</p> <p>(3) 各科目の指導に当たっては、指導方法や指導体制を工夫し、チーム・ティーチングやペア・ワーク、グループ・ワークなどを適宜取り入れたり、視聴覚教材や、L L、コンピュータ、情報通信ネットワークなどを指導に生かしたりすること。また、ネイティブ・スピーカーなどの協力を得て行う授業を積極的に取り入れ、生徒のコミュニケーション能力を育成するとともに、国際理解を深めるようにすること。</p> <p>(4) 各科目の指導に当たっては、指導方法や指導体制を工夫し、チーム・ティーチングやペア・ワーク、グループ・ワークなどを適宜取り入れたり、視聴覚教材や、L L、コンピュータ、情報通信ネットワークなどを指導に生かしたりすること。また、ネイティブ・スピーカーなどの協力を得て行う授業を積極的に取り入れ、生徒のコミュニケーション能力を育成するとともに、国際理解を深めるようにすること。</p> |
| H21 | <p>1 英語に関する学科の指導計画の作成に当たって、「総合英語」及び「異文化理解」については、原則として、すべての生徒に履修させるものとする。</p> <p>2 内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>(1) 生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して、多様な言語活動を経験させながら指導すること。</p> <p>(2) 生徒の実態に応じて、多様な場面における言語活動を経験させながら、中学校や高等学校における学習内容を繰り返して指導し定着を図ること。</p> <p>(3) 英語に関する学科の各科目については、その特質にかんがみ、生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とすること。その際、生徒の理解の程度に応じた英語を用いるよう十分配慮すること。</p> <p>(4) 教材については、英語を通じてコミュニケーション能力を総合的に育成するため、各科目の目標に応じ、実際の言語の使用場面や言語の働きに十分配慮したものを取り上げるものとする。その際、英語を日常使用している人々を中心とする世界の人々及び日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化や自然科学などに関するものの中から、生徒の発達の段階及び興味・関心に即して適切な題材を変化をもたせて取り上げるものとし、次の観点に留意する必要があること。</p> <p>ア 多様なもの見方や考え方を理解し、公正な判断力を養い豊かな心情を育てるのに役立つこと。</p> <p>イ 外国や我が国の生活や文化についての理解を深めるとともに、言語や文化に対する関心を高め、これらを尊重する態度を育てるのに役立つこと。</p> <p>ウ 広い視野から国際理解を深め、国際社会に生きる日本人としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うのに役立つこと。</p> <p>エ 人間、社会、自然などについての考えを深めるのに役立つこと。</p> <p>(5) 各科目の指導に当たっては、指導方法や指導体制を工夫し、ペア・ワーク、グループ・ワークなどを適宜取り入れたり、視聴覚教材やコンピュータ、情報通信ネットワークなどを適宜指導に生かしたりすること。また、ネイティブ・スピーカーなどの協力を得て行うチーム・ティーチングなどの授業を積極的に取り入れ、生徒のコミュニケーション能力を育成するとともに、国際理解を深めるようにすること。</p> |

表4 外国語科の指導計画作成と取扱内容の変移

| センター入試表記年度 | センター入試の学習指導要領 | センター試験問題の形式や題材の変化 | 第5問目 | 第6問目 | 動向 | |
|-------------|---------------|-------------------|---|--|--|--|
| 平成2年(1990年) | S53年度告示版 | | 説明文、豆腐の歴史について | 物語(一人称)、友人不在の間、芸達者なサルを預かることになった。 | | |
| H3年(1991年) | | | 説明文、高齢化問題 | 物語(一人称)、日本人高校生とアメリカ人女性の文通 | | |
| H4年(1992年) | | | 説明文、余暇の使い方 | 物語(一人称)、アメリカからヨーロッパに一人で旅した息子をうらやましく思う父。 | | |
| H5年(1993年) | | | 説明文、テレビの危険性について | 物語(一人称)、いつも家長の位置に座っていた父。今や語り手がその場所に座ること。 | | |
| H6年(1994年) | | | 説明文、イラクの遺跡で発見されたネアンデルタール人のコミュニティから障がいについての考察 | 評伝、1938年のダグラス・コリガンによる無着陸大西洋横断の顛末。 | H1年告示版学習指導要領を新1年生に導入(外国語で積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度の育成を明記) | |
| H7年(1995年) | | | 説明文、情報とコントロール | 物語(一人称)、コウモリが住み着いた納屋を持つ親子が家を買すまでの顛末。舞台:アメリカ | | |
| H8年(1996年) | | | 第4問に図(座席図)が配され、条件を元に登場人物の座席を答えさせる。(積極的なコミュニケーションに向けて?) | 説明文、北極や南極の水から過去の大気の性質を調査する方法について | 物語(一人称)、東京の骨董店で手に入れたフランスの絵のルーツを探る。 | |
| H9年(1997年) | | H11年度告示版 | 長文読解に会話導入 | 会話、英語圏と日本のダイビング時の指サインの指し示すものの違い | 物語(三人称)、ニューヨークの電話ボックスで見つけた木製の猫をめぐる事件。 | |
| H10年(1998年) | | | 会話、カナダに留学中の日本人大学生が現地の歯医者に行って治療をする | 物語(三人称)、釣りをするふりをして一人の時間を満喫する男性。舞台:カリフォルニア | | |
| H11年(1999年) | | | 会話、日本とALTの国のじゃんけんの違い | 物語(三人称)、初めてのデートで母から匂うチーズの配達を命じられたミミの話。 | | |
| H12年(2000年) | 長文に手紙導入 | | 会話、コンピュータゲームの攻略法 | 物語(三人称、手紙)祖母の遺品のキルトがオーケションにかけられるのを残念に思うサリー。 | | |
| H13年(2001年) | | | 会話、留学している日本人の山歩き。舞台:北米 | 物語(三人称)、海の潜る試験を自分に課す少年ジェリー。 | | |
| H14年(2002年) | | | 会話、イギリスの高校で学ぶ日本人と現地友人の手話についてのやり取り | 物語(一人称)、ポーランド出身の筆者がピアノを学ぶようになったきっかけとその後の成長について。今はカナダにいますという設定。 | | |
| H15年(2003年) | | | 会話、キャンプ場で三人(テリー、バット、アンディ)がテントの設置などを行っている。 | 物語(一人称)、親の意向で幼少時にブラジルから日本へ移住したエレナが体験した摩擦と救い。 | 文部省「英語が使える日本人」の育成のための戦略構想(使える英語を目指した数々の政策を網羅した包括的な改革案) | |
| H16年(2004年) | | | 会話、クラスメートのユキとケリーが、オンライン学級新聞について話している。 | 物語(三人称)二人の水泳選手ケイトとアンジェラが軋轢を経て成功と友情を手にする | H10年告示版学習指導要領を新1年生に導入「英語が使える日本人」の育成のための行動6か年計画(センター試験にリスニング導入) | |
| H17年(2005年) | | | 会話、小学生たちがテレビ局で天気予報の撮影を見学している。 | 物語(一人称+手紙)、一人の少年のサマーキャンプでの成長物語。 | | |
| H18年(2006年) | H10年度告示版 | | 会話、駐車場に止めた車の描写について色や駐車場所のやり取り | 会話、A韓国から福岡に遊びに来る韓国友人と人の待ち合わせ、B新しいゲームの説明 | 物語(一人称)実家の隣に住む不愉快な老人に、語り手と同じ大学の学生が助けられたという話。舞台:英語圏 | |
| H19年(2007年) | | | 絵、図に合う説明文、A:猫の防御反応 B:月、点線、四角、矢印、丸などの英語表現を使用した図の説明 C:女性と兄がアーチェリーの練習をしている4枚の連続した絵 | 説明文(一人称)、就職活動を始めた大学3年の延アンから聞いた話としてIT革命が仕事のスタイルに及ぼした影響を述べる。 | | |
| H20年(2008年) | | | 絵、図に合う説明文、A:鼓笛隊隊長のユニフォーム B:橋の説明 C:引っ越しの荷物運びの様子を描いた4枚の連続した絵について | 説明文(一人称)、大学3年の筆者が英英辞典、英和辞典の良さを理解し、2つの辞書の使い分けを勧める。 | | |
| H21年(2009年) | | | リスニング問題導入 | 2つの証言、ある事故についての2人の証言 | 説明文、「子供」という概念の形成について | |
| H22年(2010年) | | | 2つの証言、父と娘が家族旅行について語る | 説明文、げっ歯類の種の保存に成功している理由について | | |
| H23年(2011年) | | | 2つの証言、カナダの大学に留学した日本人の帰国後の体験のスピーチ | 説明文、procrastination(引き延ばし)について | H20年度告示版新学習指導要領を新1年生に導入(4技能統合的指導、英語で英語を教える)。6月:グローバル人材育成推進会議中間まとめ(国際語としての英語のための5つの提言)＝実践的な英語教育の強化(英語)＆コミュニケーション能力、異文化体験等)、高校留学等の促進、教員の資質と能力の向上 | |
| H24年(2012年) | | | 映画のレビュー2本、日本で作成された映画に関する日本人鑑賞者と英語母語話者の鑑賞者によるレビュー | 説明文、ダンスについて、フランスイギリスの社交界、アフリカ、ニューギニア、トリニダード・トバゴのダンスを紹介 | | |
| H25年(2013年) | | | 日記と手紙、スペイン人画家の日記と彼の日本生まれの孫の手紙 | 説明文、音楽を聴く機器の性能向上について | グローバル化に対応した英語教育改革実施計画/10月:トビタテ留学JAPAN開始 | |
| H26年(2014年) | | | 題材形式の違う2つの文書を読む(電子メールのやり取り問題)導入 | メール2本、娘が学校になじんでいないのではないかと心配するアメリカ人父が、中学校の担任にメールし返事ももらった | 説明文、素人が科学の研究を手伝っている事例紹介 | |
| H27年(2015年) | | H20年度告示版 | | 物語(一人称)、料理コンテストに出る叔父について | 説明文、オペラの現状と課題について | |
| H28年(2016年) | | | 物語(一人称)、猫になって、人間である自分を客観視する夢を見たユウジ | 説明文、友情を長続きさせる秘訣について | | |
| H29年(2017年) | | | | | | |

* 発表時は、大学入試センター事業第1課への問い合わせから得た回答に従い、昭和53年告示版の対象を平成7年度までとしていたが、その回答に誤りがあったため、発表後に修正を加えた。下記表5についても同様である。

表5 長文問題の舞台(推測を含む)

| 年度 | 対応する指導要領 | 日本が舞台 | 英語圏が舞台 | 左記以外または不明 |
|-----------|-----------|------------|-------------|------------|
| H2 ~ H8 | S53 年度告示版 | 1/14 (7%) | 5/14 (36%) | 8/14 (57%) |
| H9 ~ H17 | H1 年度告示版 | 3/18 (17%) | 13/18 (72%) | 2/18 (11%) |
| H18 ~ H27 | H10 年度告示版 | 6/20 (30%) | 5/20 (25%) | 9/20 (45%) |
| H28 ~ H29 | H20 年度告示版 | 1/4 (25%) | 2/4 (50%) | 1/4 (25%) |